

宮古の歴史風土から 文化芸能までまるわかり

宮古島市総合博物館

博物館は「宮古の自然と風土」をテーマに宮古の自然・歴史・民俗・文化を明らかにすることを目的に平成元年に設立されました。

館内には、歴史文化を紹介する第一展示室と、伝統芸能や行事、民俗を紹介する第二展示室があります。宮古島の特徴ある自然、風土、伝統工芸品が、ビデオやジオラマなどで分かりやすく展示されています。



第一展示室

考古・歴史

宮古が史書に登場するのは比較的新しく、14世紀になってからのことです。以後、争乱時代を経て、豊見親時代、三間切三頭時代、廃藩置県、人头税廃止運動、太平洋戦争と、宮古の人々は様々な体験をしてきました。

考古・歴史部門では、先史時代から太平洋戦争までの歴史の流れを紹介しています。



民俗

沖縄の本土復帰後、宮古の人びとの生活様式も大きく変化しました。しかし、昔から引き継がれてきた伝統芸能や民俗行事などは、今もなお各地に継承され、残されています。

民俗部門では、明治から昭和初期のカヤヤー(茅葺家)とともに、民具やレプリカ、ジオラマ等を用いて農耕・漁労・信仰・各地の民俗行事を紹介しています。



To convey the charm of Miyakojima to posterity, facilities such as the Miyakojima City Museum and the Miyakojima City Museum of History and Culture provide citizens with an opportunity to gain a deeper understanding of Miyakojima through various exhibits related to the history and culture of Miyakojima.

住所: 〒906-0011 沖縄県宮古島市平良字東仲宗根添1166-287 TEL.0980-73-0567 FAX.0980-73-0822

Miyakojima City Museum

第二展示室

自然科学 美術工芸

宮古諸島の原形は約1万年前にできたといわれ、島全体が琉球石灰岩で形成されています。自然科学部門では、宮古諸島の成り立ちをはじめ、動物・植物・昆虫・岩石・天体・海洋・気象の各コーナーを設け実物資料、タッチパネル、ジオラマ展示を用いて、宮古の豊かな自然を紹介しています。



ミヤコノロジカ
宮古島ピンザアブ
洞穴から産出した
絶滅種の更新世シ
カ類の化石



宮古島に生息する植物・昆虫の種類



大野山林の野鳥の種類を展示、鳴き声も聞くことができます。



海の生物、甲殻類、貝類の展示。



美術工芸品は「旧家所蔵品」を中心に展示。



機織り道具 地機と高機

継承する、探求する、学ぶ。

宮古島市歴史文化資料館

宮古島の歴史や文化財についての調査成果を市民に広く知ってもらったり、国指定重要無形文化財である宮古上布の魅力を伝え、文化の継承を支援するためにうまれました。



焜炉

住所: 〒906-0108 沖縄県宮古島市城辺字砂川1599 TEL.0980-77-4506 FAX.0980-72-3764 (生涯学習振興課)

セミの羽に例えられる麻織物の最高峰

手に取れば驚くほど薄く軽く、光を受けて輝く宮古上布。その歴史は古く、十六世紀後半、稲石が完成させた「綾錆布」に始まるといわれています。原材料となる苧麻の栽培から糸づくり、括り、染め、織り、仕上げ、すべての工程が島の中での手仕事で、長い時をかけ、精巧な手わざを高めてきました。その歴史的、芸術的な価値の高さから、国の重要無形文化財に指定されています。

400年余の伝統を誇る宮古上布

宮古島市伝統工芸品センター

宮古上布は苧麻繊維を原料とする麻織物で日本を代表する織物のひとつです。琉球王府時代、山や川のない宮古島ではお米の収穫が少ないため粟(あわ)を年貢として納めていました。1637年には宮古上布も貢納布に定められ女性は役人に監視されながら村番所の苧積屋(ブンミヤ)で質の良い一定量の上布を納める為に布を織りました。きびしい検査のため製織技術は向上し価値を高めていきました。

「宮古島市伝統工芸品センター」では上布の歴史や工程がわかる展示物や伝統的技法を継承するために宮古上布の製作を行っており、実際の機織りも間近で見学出来ます。

宮古上布や宮古織の加工製品等の販売も行っております。



宮古上布展示コーナー



宮古上布



機織り



加工製品販売

Miyako Jofu material is surprisingly thin and light when handled, and the shining fabric is said to be the greatest of all the hemp textiles. Its history dates back more than 400 years, and all the steps of its creation, from making yarn from the cultivation of ramie as a raw material, processing, dyeing, weaving, and finishing are completed on the island.



宮古上布の工程



苧麻(ブー)

宮古上布の原料となる苧麻は、宮古島のアルカリ土壌でよく育ち、昔から多くの種類が作られてきた。



苧麻積み(ブーンミ)

苧麻の繊維を撚りつないで長い糸にしていく作業、苧麻積み(ブーンミ)は、熟練と長い時間を要する。



苧麻糸

苧麻糸のひとつ巻きは、カシと呼びおよそ6000m。1反を織るには約30kmが必要となる。苧麻糸は図柄に合わせて染料が染み込まないように木綿糸で括ります。

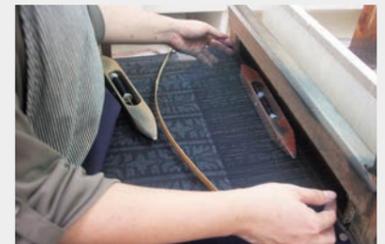
重要無形文化財 「宮古上布」指定の要件

- 一. すべて苧麻を手紡ぎした糸を使用すること。
- 二. 柄模様をつける場合は、伝統的な手ゆいによる技法又は手くくりによること。
- 三. 染色は純正植物染であること。
- 四. 手織りであること。
- 五. 洗濯(仕上げ加工)の場合は、木槌による手打を行い、使用する糊は天然の材料を用いて調製すること。



染色

藍染めは色に深みをだすために琉球藍と蓼藍を使う。藍の状態を見ながら、濃紺に染まるまで約1~2週間かけて染める。



織り

染め上げた糸は図案どおりに経糸をそろえ、拵合わせをしながら織っていく。1反織り上げるのに何か月もかかる。



砧(きめた)うち

織りあげられた上布は煮込み洗いの後、砧うちで仕上げる。重さ約4キロの砧に打たれることによって、上布は滑らかに光沢を帯びる。

Ramie, the raw material for Miyako Jofu cloth, grows well in the soil of Miyako Island. Ramie becomes yarn through multiple processing, and is woven into cloth. One piece of cloth requires yarn of about 30 km long.